「南の風」 令和8年度 第6号 （10 月 30 日発行）



南の風

―第６号―

～重心部門 避難訓練～

重心部門では、９月１日（火）に小学部、中学部、高等部の全学部で地震を想定した避難訓練を実施しました。緊急地震速報の音を聞いて、教員と一緒に防災頭巾やヘルメットを被って頭を守ったり、窓や棚等の危険な場所から離れたりと身を守るための退避行動を実際に行いました。馴染みのない緊急地震速報の音や被り慣れない防災頭巾、ヘルメットに戸惑う児童・生徒も見られましたが、教員からの言葉かけを受けながら最後まで取り組むことができました。

また、訓練の中では退避行動の実践だけでなく、９月１日にちなんで「防災の日」に関する話を聞いたり、非常用バッグに入っているランタンやラジオの使い方を確認したりといった防災学習も行いました。あまり普段の生活で見かけることのないランタンやラジオに興味をもち、じっと見つめる様子が印象的でした。

自然災害はいつ起こるか分かりません。今後も定期的な避難訓練の実施をはじめとして防災学習を行い、いざという時に備えていきたいと思います。



～学習発表展～



９ 月 14 日から 23 日に「学習発表展」を開催しました。各学部・部門から、図工や制作の時間に取り組んだ作品、書写の作品、家庭科の裁縫の作品等を院内の廊下に展示しました。子どもたちの個性や学びが感じられる作品が並び、廊下を彩りました。

展示期間中の図工の授業では、作品鑑賞を行いました。普段なかなか見ることができない他学部・他部門の作品にも触れることができ、互いの表現のよさを味わう良い機会となりました。

また、今年度も「いいねの花束」へメッセージを書いていただき、ありがとうございました。
「じょうずだねって書いてある！」「おうちの人と見に行ったよ！」と、嬉しそうに読む子どもたちの姿もあり、温かい気持ちになりました。



教員エピソード～「できない」から始まった夢～

私は２歳のときに小児喘息を患い、３年間の入院生活を経験しました。退院後も運動制限があり、息の上がる激しい運動は禁止されていました。小学校に入学してすぐ、地域の少年野球クラブに入部しました。幼馴染の友だちが始めたことがきっかけでした。しかし、自由に身体を動かすことができなかったため、ヒットを打っても友だちが代走として走ってくれました。みんなが元気に身体を動かす姿を見て、悔しい気持ちになることも多かったです。５年生にあがる頃には喘息の症状も落ち着き、医師からも運動を許可されました。その年の冬に、野球クラブ対抗の駅伝大会があり、当日までたくさん練習を重ねました。身体を動かすことができる喜びで、心がいっぱいだったことを覚えています。そして、大会では自分でも驚くほどの力を発揮することができました。

中学校では陸上部に入部し、身体を動かすことの楽しさや、努力を積み重ねることの大切さを学びました。そして、「できなかったことができるようになる喜びを、子どもたちに伝えたい」という思いから、体育の先生を目指して大学に進学しました。大学で様々な講座を受講する中で、過去に横浜南支援学校で先生をしていたことのある教授と出会いました。その先生に、子どもたち一人ひとりの成長を支える横浜南支援学校の魅力を教えていただき、特別支援学校で働くための免許を取得することを決意しました。その数年後、この横浜南支援学校で皆さんと出会うことができました。もし、自由に身体を動かすことが「できること」だったら…私は、先生という仕事をしていなかったと思います。みなさんも今、苦手なことや難しいと感じることがあるかもしれません。でも、その経験はきっと未来の自分につながっています。焦らず、自分のペースで、周りの大人の力を借りながら、一歩ずつ前に進んだ先に素晴らしい未来が待っていることでしょう。みなさんがどんな大人になるのか、とっても楽しみです。

（重心部門　教諭）



すぐーる（連絡システム）について

今年度より、学校からの連絡で「すぐーる」を利用します。まだ登録されていない方は、配付してある二次元コードより利用登録にご協力お願いいたします。

横浜南支援学校ホームページでは南の風のバックナンバーや学校生活について見ることができます！

URL（https://www.pen-kanagawa.ed.jp/y-minami-sh/）

スマートフォンやタブレット端末の方は二次元コードからもアクセス可能です→